



国際数理科学協会

植松 康祐*

International Society for Mathematical Sciences

Koyu UEMATSU*

1. 国際数理科学協会のあゆみ

社団法人国際数理科学協会 (ISMS, International Society for Mathematical Sciences) は、故清水辰次郎氏 (大阪府立大学名誉教授, 神戸大学名誉教授, 東京理科大学名誉教授) が, 1948 年 (昭和 23 年) 1 月に創刊した, 応用方面の数理に関する英語論文を掲載する雑誌「Mathematica Japonica」(「MJ」誌) の発行主体として, 長年に渡り国際的に活動してきた学会組織です。

終戦直後の 1948 年に, 英文誌「MJ」誌を個人の力で創刊された, 清水辰次郎先生の経歴をご紹介します。清水先生は, 1924 年 (大正 13 年 3 月) 東京帝国大学理学部を卒業され, 同学部助手となられました。その当時, 東大数学教室内にあった組織を日本数学会として設立させることにも, 清水先生がご尽力されたそうです。その後 1932 年 (昭和 7 年) に大阪帝国大学が創立され, その創立委員であった東大高木貞二先生の勧めで, 清水先生は阪大教授として赴任されました。そして, 50 歳のとき, 大戦後の窮乏と混乱のさなかに私費を投じて, 当時ほとんど無かった数学研究発表英文誌として「MJ」誌を創刊されました。「MJ」誌は, 数学の英文誌発刊としては, 日本で最も古い雑誌とのこと。清水先生は大阪大学・教授のあと, 神戸大学, 浪速大学 (現大阪府立大学), 東京理科大学を歴任されました。清水先生の主著は, 「非線型振動論」(1965 年, 培風館) で, 1992 年に 95 歳で, 惜しまれつつ逝去されました。

「MJ」誌には, 河田敬義, 小平邦彦, 小松勇作, 松下眞一, 州之内源一郎, 矢野茂樹, 矢野健太郎, 森田紀一, 吉田耕作等々, 後の世界の数学を担う多数の方々が投稿され, 戦後の日本の数学研究を広く世界に告知しました。「MJ」誌の発行と共に設立された数理科学の振興をはかる目的の「数理科学研究会」組織を母体として, 1982 年 (昭和 57 年) に「数理科学協会」が発足し, 1987

年 (昭和 62 年) には「日本数理科学協会 (JAMS)」と名称を変更しました。その後, 2005 年から「国際数理科学協会 (ISMS)」という名称が使用されており, 2010 年 (平成 22 年) に一般社団法人としての登記を行っています。

出版物の変遷は「MJ」誌に合わせて, その姉妹誌の電子 Journal と Paper 誌を併せ持つ, Scientiae Mathematicae (SCM) を発行してきました。そして, 21 世紀を迎えるにあたり, 二つの雑誌を統合した Scientiae Mathematicae Japonicae (SCMJ) を発刊することになり, 現在に至っております (http://www.jams.or.jp/isms_top-j.html 検索: 国際数理科学協会, にてご覧いただければ幸いです。)

今日まで発展に寄与された先生方の中でも, 清水先生の思いを重く受けとめて, この組織運営に長く関わられてこられたのが, 石原忠重先生 (大阪府立大学名誉教授) だったと思います。石原先生は, 大阪府立大学に置かれていたこの組織の事務局を堺東駅前ビルの一室に移され, 理事長や雑誌編集委員長などすべての運営に献身的に貢献されてきました。むろんその後, 理事長を務められた米田薫先生 (大阪府立大学名誉教授), 井関清志先生 (神戸大名誉教授, 鳴門教育大名誉教授), 長尾壽夫先生 (大阪府立大学名誉教授), 寺岡義伸先生 (大阪府立大学名誉教授) のご尽力があり, 現在に続いております。

本誌の印刷版は, 世界各国の図書館に広く配布されています。現在 (2014 年度), Board of Editors (編集陣) には, 国内 (39 名) だけでなく, 海外 17 か国の著名な研究者 (43 名) が参加しており, そして, 国際的に有名な研究者によるアドバイザー International Advisors (11 名) と Honorary Editors (2 名) が監修するという編集体制です。本誌への投稿には (窓口として) Editor による迅速な査読形態がとられ, 投稿論文は accept (または組版) のあとに, 速やかに電子版が掲載され, その後印刷版が発行されます。本誌を通じて世界の Research Group (研究グループ) に論文が紹介され積極的な交流が推進されています。本誌には, 有名な数理科学者の original paper (原著論文) や, 研究に役立つ survey (研究状況の

*大阪国際大学大学院経営情報学研究科 大阪府枚方市杉 3-50-1

*Graduate School of Management and Information Science, Osaka International University, 3-50-1 Sugi, Hirakata, Osaka

Received: 15 January 2015, 17 February 2015

把握)が掲載され、International Plaza 欄には、世界の有名数理科学者による、極めて興味ある Expository Paper (解説記事)を掲載しています。

本協会が Reciprocity Agreement (互惠協約)を締結している団体は、ヨーロッパ数学会 (EMS, European Math. Soc.), フィンランド数学会, オーストラリア数学会, ポーランド数学会です。

2. 代表理事に就任してからの活動

私が、この協会のメンバーとなったのは、およそ 30 年前のことです。大阪大学・工学部大学院博士後期課程の学生として、信頼性工学に関する論文を投稿したのが始まりでした。その後、大阪国際大学に赴任したとき、学生時代の指導教官であった西田俊夫先生(現在、大阪大学名誉教授・大阪国際大学名誉教授)のご指示で、本協会のお手伝いをするようになりました。主に、会計関係の仕事をお手伝いしておりましたが、会計幹事から監事役、そして、2014 年 4 月から代表理事に就任しております。まず、最初に手掛けた仕事は、経費削減のための事務所移転で、長年親しんだ堺東駅前(大阪府堺市)のビルから一駅離れた浅香山駅(南海高野線)へ移したことでした。本協会の特徴のひとつでもあります、自

前の事務所を持ち、事務局と学生アルバイトにて運営を行っていることです。もう一つの試みは、2015 年 3 月に大阪国際大学にて数理科学シンポジウムを開催することになりました。これまでは、英文の論文誌を発刊することが中心となった学会であったために、学生や若手の研究者にとってはハードルが高く感じられたためか、学生会員はわずかで、会員の高齢化が進んでいます。今後は、研究会やシンポジウムなどの開催数を増やすことにより、若手が発表できる機会を与え、若手研究者の育成を図りたいと考えています。また、ホームページの改定や充実を図るために、現在準備を進めております。横幹連合の皆様方の中で、数理科学に関連ある研究をされている先生方の「SCMJ」誌へのご投稿をお待ち申し上げます。また、数理科学シンポジウムへのご参加も頂ければ幸いです。今後ともよろしく、お願い申し上げます。

植松 康祐



1956 年生まれ、大阪大学・工学研究科・博士後期課程満期退学、博士(工学)(名古屋工業大学)、専門分野: 確率過程論、信頼性工学、ゲーム理論、現在: 大阪国際大学・大学院経営情報学研究所・研究科長、グローバルビジネス学部・教授
